

定例教育委員会会議録

平成29年2月28日

境港市教育委員会（平成29年2月28日委員会会議録）

招集年月日 平成29年2月28日 15時30分

招集場所 市役所第三会議室

開 会 15時30分 教育長宣言

出席委員 ① 松本 敏浩 ② 谷田 真基
③ 酒井 伊津子 ⑤ 徳永 由樹
⑥ 赤石 有平

教育長から説明のため出席を求められた者

教育委員会事務局参事 川 端 豊
教育委員会事務局長 藤 川 順 一
学校教育課長 影 本 純
学校教育課補佐 門 脇 克 美
生涯学習課長 黒 崎 享
教育総務課補佐 松 本 昭 児
教育総務課係長 北 野 瑞 拓

傍聴者数 なし

会議書記 教育総務課係長 北 野 瑞 拓

提出議案 なし

協議事項 その他

報告事項 2月の行事報告、3月の行事予定など

【1. 開会】

○松本教育長 それでは、ただいまから2月の定例教育委員会を始めます。

【2. 前回議事録承認】

【3. 議事】

○松本教育長 本日は議案はございません。

【4. 協議事項】

○松本教育長 本日は協議事項はございません。

【5. 報告事項】

《学校教育課長、生涯学習課長 各報告》

○松本教育長 ただいまの報告につきまして、ご質問等ありましたらお願いします。

○赤石委員 質問というか、わからないところですけど、エントランスホールの階段側のところはエレベーターですか。2ヶ所。

○生涯学習課長 エレベーターです。場所は変更になると思います。

○赤石委員 カフェが2階に来るということですので、障がい者の方等も使われると思うので、場所は考えていただけたらと思います。基本設計の最終的なものが3月11日に出てるのでしょうか。

○生涯学習課長 3月11日の市民説明会の時は最終のものですが、パブコメの時に出すものがほぼ最終のものと思っていただけれ

ばと思います。パブコメをして、なおかつ市民説明会をするということでございます。

※2月25、26日につくば市で開催された「教育長セミナー」について、松本教育長より報告

○赤石委員

先ほど教育長がおっしゃったように、コミュニティ・スクールで地域とみんなで子どもたちを育てるという考えもありますが、私たちの時代と違い、最近は保護者の方が「教育」と名が付けば、何でも学校の方にお願ひしますみたいな傾向がある様に思います。早急にPTA等と連携して、子育ての基本はやっぱり保護者ですよという意識をもっていただく必要があると思います。もちろん家庭教育に熱心な保護者の方もおられると思いますが、保護者に子育ての基本は保護者が一番重要だという意識がないといけないと思います。地域で、みんなで、一緒に子どもたちを見守っていこうということも大事なことでとは思いますが、一番の根底は保護者がこれまで以上に本気になって家庭教育に取り組むことが必要だと思います。私は、特に「挨拶の教育」などは学校で教えるものではなく、家庭教育の中で一生懸命取り組んで教えるものだという意識があります。是非PTAと連携して、「教育に関することは何でも学校で」という意識を変えられたらいいかなと思います。

○谷田委員

私も赤石委員が言われたことに全く同感でして、本来家庭でしないといけないことが学校にお任せになっているというところがあって、それもやっぱり教師の多忙化に繋がっている一つの要因かなと思いますので、家庭教育というのを今一度しっかり力を入れてやって行く仕組みというか、体制作りが必要なのかなと思います。

○酒井委員

最初に上がっている学校、家庭、地域の役割分担というのはもう何年も前から言われていることですが、なかなか役割を明確にするとか、相互に交わる部分はたくさん

あるのですが、そのあたりがなかなかできていない原因
というか、それは何なのだろうかと思います。

○松本教育長

私もずっと中学校の現場に勤めていまして、当然家庭の
役割っていうものを徹底してほしいという、そういった
呼びかけは保護者の方にもしたのですが、一つはですね、
経済的な格差という問題が今、非常に大きくなっていま
して、例えばひとり親家庭ということになると、経済を
維持するということで、働きに行かれます。そうすると
子どもさんと係わる時間というものが非常に少なくなっ
て、何となくこう食事でも精一杯というような形、その
あたりのゆとりが無くなっているなという実態も感しま
す。それからもう一つは、経済的には豊かですが今企業
の方が非常に不況ということもあって、労働時間が長
くなっている。教員だけではなくて、結構会社に拘束さ
れる時間が非常に長くなっている関係で、経済的にはゆ
とりがあっても時間的格差という部分で、これもまた子
どもさんと係わる時間が十分に持てない。そういった実
態もあります。そういった中で、家庭教育を親の責任でや
りなさいという、これはもちろんそうなのですが、では
どう支えられるかということもこれから考えて行かない
といけないのかなというのは感じました。そういった中
で、コミュニティ・スクールというのは、単に学校だけ
を支えるのではなくて、家庭の方も支えるという動きも
していきますので、そういった意味ではうまく機能させ
ていくということが境港市の実態に合っているのかなと
いうのは感じております。

○赤石委員

いろいろな関係があるとは思いますが、多忙っていう
部分でも本来やっぱり家庭教育でする部分を学校の方に
いろいろ役割分担しているから余計に先生方も忙しいし、
でもやっぱりそういうところを将来考えないと、子ども
の問題でも色々なSOSを出していても、なかなか先生
方に見る余裕が、一人一人の子どもをしっかりと見る時
間が無いからトラブルや事故などが起こったりするケース

があると思うので、やっぱり先生の多忙感を取るということを実際に早急にしないといけないと思います。

○松本教育長

そうですね。時間が無い中で、保護者の方がきちっと子育てをやる。その時に何をやればいいのか。家庭教育って何ですかって聞いた時にどの位の方が自分の意見を持っておられるのか。その辺りも価値観が多様化してきていまして、なかなか何をすればいいのだろうっていう風に迷っておられる保護者の方も居られるのかなと思います。市の教育委員会としてきちっとアナウンスすることも必要かなという風には思っております。何となく家庭教育と言うと高尚なことをやらないといけないような、そんな印象を持たれると思いますが、私は習慣をつけて欲しいと思います。子どもに習慣をつける。それは自分を大切にすることを。今鳥取県がやった「早寝、早起き、朝ご飯」というのは全て自分を大切にすることを。それから周りの人を大切にすることを、代表的なのは挨拶です。挨拶というのは相手と係わる第一歩です。返事というのは相手を受け入れる第一歩です。だから挨拶と返事をきちっとする。あとは物を大切にすることを。整理整頓、清掃っていう部分です。それからその後には自分を豊かにすることということで、読書習慣とか学習習慣とか、そういったような習慣になるのかなと思います。そういった習慣を境港市の全家庭で目指しましょうというアナウンスをしてもいいのかなと思ったりしていますが、分かり易く何かメッセージを発信するというのも家庭教育を助ける一つの方法かと思っております。あまり干渉はできないですが、ただそういった基本的な方針は示してもいいのかなとそういう風には思いますが、どうでしょうか。

○赤石委員

私はやっぱり学校に対しての僕らの考えは、学校では学習教育、例えば数学とか国語とかそういうものを学校でお願いしたいし、それ以外のことは基本的にはみんな家庭教育の範囲だと思います。やっぱり算数を教えたり、

国語を教えたり、理科を教えたり、家庭では中々できない部分を学校にお願いして、それ以外のところはですね、基本的には体力の問題でも、学習教育以外はみんな基本的には家庭教育の範囲と私は思っています。

○松本教育長

本当にそうなってくればありがたいなと思います。例えば学校に登校する時の事故は誰の責任かという問題が結構出るわけです。時には先生方の見守りが十分ではなかったとかいうようなことがちょっと話題になることがあります。外国ではそれはあり得ないことで、校門に入ってからが学校の責任です。だから不登校は学校の責任ではないわけです。学校っていうのは学校に来た者を教育する場であるから、来れない者については親の責任というようにピシッと線引きがされています。ところが日本の教育は、不登校は学校も責任の一部を担っているというような、そのあたりの社会的な風潮というか考え方も違うかなという風に思います。学校責任というのがどんどん広がっています。いじめという問題も確かに学校の指導の不味さっていう部分もあるのですが、その中で家庭の責任というのは一切報道されないわけです。どうしても学校責任という部分だけが表に出てくる。実際に教師はその部分で悩んでいるのではないかなと思います。

○赤石委員

例えば子どもたちが夜遅くまで、明け方まで遊んでいるとかを聞くと、それこそ保護者は何を考えているのかと僕らは単純に表面的な部分しかわからないからそういう風にすぐ判断するかもしれないけれど、そういったことは異常だということを感じてもらわないといけないと思います。

○松本教育長

ありがとうございます。その他、何かありますでしょうか。

○谷田委員

一つ確認させていただきたいのですが、教員の、学校が多忙化している理由に部活動が挙げられているのですが、僕らが小さいときは学校の先生が、部活で教えてくださっていたのですが、最近は結構保護者が教えているケースが多いと思うのですが、それは何か学校側とPTAとで話し合いをして、学校が見るとか、保護者に見てもらうとか、そういう話し合いで決まるものなのですか。それとも何か規定みたいなものがあるのでしょうか。

○学校教育課長

まず正式な外部指導者という制度があります。これは鳥取県教育委員会の体育保健課の方が、申請して誰かいい人がいればその指導者について、多少謝金を払えるというような制度があります。これは非常に枠が少ないのでそれ以外だと基本的には保護者の方が学校に頼まれて、ボランティアで教えますよというところで、補助して指導される例は学校ではあります。それは各学校の判断、校長先生との判断とかというような形で、ボランティアというか指導のお手伝いという範囲で入ってもらっているという形です。ただ運営全体に関しては、やはり学校、教員の方が全てもとになっているので、ですからあくまでボランティアというような形で指導のお手伝いをされている、或いは専門的な知識を持っておられる方に来ているというのが実情です。

○谷田委員

今、現場の方でいくと、一端PTAの方で受けたら、恐らく毎年PTAの中で順繰り順繰り誰かがやって見ていくという格好になっているんだろうと思うんですけど、その中で一つ保護者の声で聞いたのは、学校の先生が指導者で教える分にはもともと教育者ですから、そういった観点で指導もなされるのですが、PTAの人がやる場合には、中には乱暴な言葉使いをしたりとか、そういうのを保護者から見るとそれはどうなのかなと思う部分もあるのですが、ただ誰かがやらないといけないので、中々それも言いにくいというところもあるみたいで、ちょっと実態としてはそういう問題もあるので、学校も単

純にPTAに全てお任せして回していただくというのもちょっとそれはそれで色々考えないといけない点もあるのかなと思ったりはしています。

○松本教育長

中学校の部活は基本的には教師が指導ということになります。従って選手の輸送も教師、試合があるときのベンチの指導も教師、教師以外でできるのは先ほどお話がありましたようにきちっと登録されて、登録した人っていうのは講習を受けますので、先ほどの問題等含めての講習を受けた指導者じゃないと大会のベンチには入れないというような制度になっています。小学校の方はスポーツ少年団という形になって、学校の教員は手を引いていますので、地域の指導者の方をお願いをしているというものです。今、国が考えているのは中学校の部活に部活指導員というそういった者を配置する、その者は生徒の引率もできる、ベンチにも入れるという人を増やしたい、新しく作りたいという風なことで、教員の部活の負担軽減を図るといったような事業に着手されるようです。ただそうなってくると資格制度みたいな形になりますので、一定の講習を受けた方が指導員になれるという形になるのではないかと思います。問題は鳥取県みたいに人口が少なくてみんなが仕事をしている環境の中で、そんな人がいるのかと、都会にはいても鳥取県にはいないぞと、そんな問題も出てくるのかなと思います。

○谷田委員

中学校では今現在ボランティアでは保護者が見ることはできないということですか。

○松本教育長

援助という形で入られるのですが、正式にベンチに入るというようなことは、大会上は許されてないです。中体連のルールからして。ただ親ですから選手の輸送という部分は、教員に代わって親という形でお願いをするような場面はひょっとしたら起こっているかなと思っはいます。

○赤石委員 先生が担当する場合、昔はだいたい部活の先生と言ったら専門分野みたいな、この人は野球、この人はバレーでしたが、でも今だったら経験のない方まで指導者になるケースというのがあって、ああいう風なのをしていたらそれこそ子どもが伸びる力を持っている子も、申し訳ないけれど、経験のない先生が指導されても中々難しいと思うし、かといって3時、4時から一般の人ができるかという中々難しい、やっぱりそういう先生を固定化ではないですが、昔は野球だったらこの先生とか決まってそういう先生が居られたのですが、今はそういうことは無理なケースなのですか。

○松本教育長 今は少なくなりましたですね。私は部活をするために教員になったという風に思っているのですが、今はそういう先生はどんどん減ってきておられるかもしれません。でも子どもの育成という部分では部活動というのは非常に成果がある部分がありますね。中々難しいところがあります。

○赤石委員 精神的な部分では、僕らも部活をしてそういう部分は気持ちとかそういうのは非常にスポーツの方で、運動の方で教えてもらったイメージがあるものですから、ぜひその点も考えていただけたらと思います。

○松本教育長 一番長く係わる部活は吹奏楽ですね。夏休みは、朝、昼、夕方、ずっと指導をしています。パート練習、部分練習また全体練習、本当に吹奏楽の先生というのは家庭を捨ててやっておられるのかなと思いますね。

○赤石委員 そういう先生が昔は吹奏楽もそうかもしれないけど、スポーツの方でもおられて、日曜日になると試合に行かれて、遅くまでされていました。

○松本教育長 そういう面では今の先生方も本当にそういう動きをしておられます。毎週のように練習試合ということもありま

す。

○赤石委員

勉強が悪いと補習まで、その先生が学校の授業まで、後で補習を部員に対してですね、教えたり、そういう先生がおられました。それこそ家庭を顧みずじゃないけど、凄かったなと思います。

【6. 閉会】

○松本教育長

それでは以上をもちまして、本日の定例委員会は閉会といたします。ありがとうございました。